

令和4年度 福寿荘事業報告

1. 概要

知的障害者を受入れ、安全で健康かつ安定した生活を保障する中で、一人ひとりの特性やニーズを的確に把握し、個別の支援計画に基づき適切な支援・援助を行った。また、社会生活(地域生活)に必要な知識技能、態度の習得に努め、豊かな人間性を養い、成長向上をはかり、社会的自立をめざした。

新型コロナウイルス感染症感染防止に取り組み、手指の手洗い、アルコール消毒に努め、また食堂利用や活動にあたっては「3密」を回避し実施した。なお、4月に集団感染が発生し、「感染症対策委員会」により感染発生時の対応を行い、「感染時における事業継続計画」により運営継続を講じた。

また、適切な支援の取り組みとして、「虐待防止のための指針」及び「身体拘束適正化のための指針」を定め、虐待防止委員会や身体拘束適正化検討委員会により虐待防止に努めた。

2. 施設運営

(1) 職員構成(令和5年3月31日現在) ()…非常勤職員別掲

荘長	サビ管	事務員	支援員	看護師	栄養士	嘱託医	計
1	1	2 (兼務)	12 (3)	1	1	(1)	18 (4)

(2) 会議

会議名	内 容	実施日	構 成
運営会議	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営全般について連絡・協議 年間計画、方針の調整 体制全般に関する連絡調整、問題解決 	随 時	荘長、課長
全体会議	業務及び支援全般に関わる検討協議	毎月1回 第3木曜 日	全職員
支援会議 虐待防止委 員会	<ul style="list-style-type: none"> 各班の連絡調整 支援内容の相互確認・検討・進展 入所者の福祉向上と人権擁護の促進 職員相互の資質の向上と各班間の連携 	毎月1回	支援課長、医務、 各班チーフ、GH世話人 栄養士

身体拘束適 正化検討委 員会	・利用者の人権擁護に基づく支援及び職員 への研修	2回	荘長、関係職員
感染症対策 委員会	・身体拘束に関する適正化の推進及び職員 への研修	1回	
	・施設における感染防止策の検討 ・新型コロナウイルス感染症対策関係	3回	
班会議	・支援内容、個別方針の検討・作成 ・入所者の環境整備と処遇向上の進展 ・職員相互の資質の向上と職員間の調整及 び協力体制の進展 ・ケース会議(個別支援計画関係)	毎月1回	各班担当職員
給食会議	入所者の給食に関する必要事項の検討・協 議	3ヶ月に1 回	給食係長、管理課長 利用者、医務係長
行事会議	行事の企画・立案	随時	各行事担当

(3) 職員研修

月	研修内容	主催	開催	職種	
6	SST 初級研修	S S T 普及協会	オンライン	支援員	
7	第45回てんかん基礎講座	日本てんかん協会	オンライン	看護師	
8	第1回強度行動障害者支援者養成研修	名古屋市	県福祉会館	支援員	
	職員のメンタルヘルス研修	県福祉協会	オンライン	支援員	
	対人援助とコミュニケーション研修	名障連	イーブル名古屋	支援員	
	第1回介護保険福祉施設栄養士研修	名障連	オンライン	栄養士	
11	ソーシャルワーク研修	名障連	総合福祉会館	支援員	
	愛知県民間社会福祉事業職員共済会	共済会	県福祉会館	事務員	
	退職共済事業システム事務説明会	共済会		事務員	
12	人権・倫理研修	名障連	オンライ	支援員	
	精神障害研修	市社協	医師会館	支援員	
	第3回強度行動障害者支援者養成講座	名古屋市	総合福祉会館	支援員	
1	防災研修	市社協	オンライン	事務員	
3	佐々木康栄先生の講演会	TEACCH プログラム研究会	オンライン	支援員	
	リスクマネジメント研修	名障連		支援員	
	自閉症支援者を育てるために	TEACCH プログラム研究会		支援員	
	労務管理研修	名障連		事務員	

3 利用者状況

(1) 入退所〈生活介護 定員50名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
退所	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
在籍	39	38	38	39	39	39	38	39	38	38	38	38

〈施設入所支援 定員40名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0
退所	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
在籍	36	35	35	36	36	37	36	37	37	37	37	37

(2) 入所期間別(37人)

令和5年3月31日現在

	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～7年未満	7～10年未満	10年以上
男	2	1	0	0	2	15
女	1	0	1	1	2	12
合計	3	1	1	1	4	27

(3) 年齢別(生活介護38人(内、1人は通所者))

令和5年3月31日現在

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	合計	平均
男	0	1	0	4	9	5	1	20	51.71
女	0	3	0	3	7	4 (1)	1	18	50.33
合計	0	4	0	7	16	9 (1)	2	38 (1)	51.02

最高年齢…70歳(男性・女性) 最少年齢…21歳(女性)

(4) 障害別(生活介護38人(内、1人は通所者))

令和5年3月31日現在

障害名	知的障がい	てんかん	ダウン症候群	自閉症	精神障害			
					統合失調症	心因性妄想	適応障害	てんかん性精神不安
男	20	8	1	6	1	0	0	0
女	18	5	2	4	0	1	2	1
合計	38	13	3	10	1	1	2	1

障害名	身体機能障害				
	聴力障害	言語障害	嚥下機能障害	体幹機能障害	視力障害
男	0	0	0	2	2
女	1	1	0	1	1
合計	1	1	0	3	3

(5)障害程度区分(生活介護 38人(内、1人は通所者))

令和5年3月31日現在

区分	「3」	「4」	「5」	「6」
男	0人	5	8	7
女	0人	1	10(1)	7
計	0人	6	18(1)	14

4. 支援内容

<1 班>利用者 13 名

- ・昨年度に引き続き重度知的障害・行動障害の利用者を中心とし、木工棟で活動を行なう。今年度も重点的に行ったことは利用者個々に合わせた自立課題の提供とスケジュールなどの視覚支援の充実、個別空間の充実を図った。自立課題では、個々に合わせた提供をしながら前期と後期と大きく2回入れ替えを行い利用者の作業能力向上に努めた。
- ・生活場面では居住空間の見直し、視覚支援を行い、活動、生活場面と連動しながらの支援を行う。また、生活場面ではコロナウイルス感染後から誤嚥性肺炎になりやすい利用者が数名見られたことから誤嚥性肺炎防止の為、看護師や栄養士と共に食事支援について工夫を図った。

<2 班>利用者 26 名(A 班 10 名 B 班 16 名)

- A 班
- ・高齢利用者・歩行が困難な利用者・医療的対応が必要な利用者の班で、個々の状態に合わせ、身体機能維持を目的に訪問リハビリの利用、個々に合わせた作業や課題、散歩を行った。
 - ・高齢者に対して認知症予防のため生活の中で場면을換え気持ちに刺激を与え張り合いが持てるようにした。
 - ・余暇活動としてティータイム、ドライブを企画、ドライブスルー、デリバリーを利用し外食の雰囲気をお楽しみなどして日々の生活に楽しみを持てるよう取り組んだ。

B 班

- ・知的障害・精神障害・自閉症等様々な利用者に合わせて外注作業・自立課題・洗濯物の仕分け作業・施設内の清掃活動などに取り組んだ。
- ・体力作りのため、散歩は個々のペースや体力に合わせて距離や時間を分け無理なく継続して行えるよう配慮し体力維持に努めた。必要な方には、訪問リハビリを利用しマッサージや運動を行った。
- ・意思表示を目的とし一部の利用者に対して SST(ソーシャルスキルトレーニング)を定期的に行った。

・余暇活動では、DVD鑑賞、ドライブやドライブスルー、テイクアウトなどを活用したティータイムなどを提供した。

5. 文化・余暇活動

利用者一人ひとりが自分の趣味趣向を有意義に発揮できる場を提供し、自己表現できるように支援した。また、サークル活動や自治会活動を取り入れ、本人にとって楽しく生き甲斐となるよう自分の発想を展開していける力を発揮できるように支援した。

(1) 荘生自治会

〈総 会〉…感染防止のため総会を行わず、班代表にて利用者個々の意見を集約し、役員会のみ実施した。

〈誕生会〉…利用者全員及び職員で誕生者を祝う会として毎月1回実施した。

〈奉仕活動〉…毎月1回、自主的活動として、施設内の環境整備を行なった。

なお、自治会による喫茶は新型コロナウイルスの感染防止のため利用者主催の飲食の活動は自粛した。

〈その他〉…役員は、利用者代表として責任を持ち施設生活を送る上で役割を分担して行った。

(2) サークル活動

今年度は実施せず

(3) その他

利用者からの要望に対し適時必要な支援を行なった。

6. 行 事

・昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染防止のため、利用者のみ参加する行事をした。

〈大行事〉

実施日	内 容	実 施 状 況
中止	夏祭り	7月29日(金)に夏祭りを実施する予定であったが、GH利用者に新型コロナウイルス感染者が確認された為、感染拡大防止の為に中止とした。 8月25日(木)に夏祭りを行う予定であった「釣りゲーム」を行い、昼食にて夏メニューの食事を楽しむ形のイベントを開催した。また、当日、花火を行う予定であったが、雨天の為、9月15日(木)の夕方に行った。
10月14日(金)	運動会	福寿荘グラウンドで玉入れや徒競走、パン食い競争、ボールを使ったピン倒しを行い、体を動かしながら楽しむことができる内容を開催した。

11月8日(火)	秋行事	秋の芸術鑑賞会として、人形劇団むすび座による「ひもルンぱ」「まほうネズミのシュッポ」の2演目を講堂にて鑑賞した。また、昼食はキッチンカーのケータリングを利用して、外食の雰囲気でスガキヤのラーメンを食べ、芸術と食を楽しめる企画となった。
中止	クリスマス会	12月16日(金)に講堂にてクリスマス会を行なう予定であったが、福寿荘利用者に新型コロナウイルス感染者が確認された為、感染拡大防止の為に中止とした。 開催はできなかったが、予定日の昼食時にクリスマス会のメニューと、おやつにケーキを提供した。また、12月23日(金)に各自プレゼント配布を行なった。

〈小行事〉

実施日	内容	実施状況
4月初旬	花見	昼食やおやつを楽しみながら実施した。
7月初旬	七夕	短冊に願い事を書いて笹へ飾った。
9月1日(木)	炊き出し訓練	災害時の避難所を想定し、非常食を体験した。
3月30日(木)	慰労会	頑張った利用者の方を表彰した。食堂・講堂に分かれ美味しい食事をとり、一年の労を労った。

7. 地域交流及びボランティア・実習生の受け入れ

新型コロナウイルスの感染防止の為、地域との交流は自粛した。また、行事縮小のためボランティアの受け入れは行わなかった。

実習については、社会福祉士実習(8日間)を2名、保育実習(10日間)4名をそれぞれ受け入れた。

8. 給食

調理業務については、委託業者との連絡・調整に努め、利用者の嗜好等を考慮し適正な栄養の確保と共に盛り付けや味付け等、十分に配慮した。また、食品衛生にも細心の注意を払った。

なお、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、食堂利用時の人数を半数とするなどの対策をとり、密な状態を解消した。

- (1) わくわくランチ(毎月1回)、選択メニュー(毎月1回以上)

給食の弊害である「与えられる」という食事意識を少しでも解消する為、バイキング方式などのメニューを積極的に取り入れた。それにより自らの選んだものを食べるという自己決定の機会を増やすと共にマナーの練習を行い、継続して「楽しい食事」を提供した。

(2) 治療食

肥満食、刻み食に加え、疾病の状況に応じた献立を取り入れ健康面の配慮を行なった。

(3) 栄養指標

① 栄養摂取目標値

エネルギー	タンパク質	脂肪	Ca	Fe	VA	VB1	VB2	VC
1950 kcal	60 g	49 g	660 mg	9 mg	780 μg	1.1 mg	1.2 mg	110 mg

② 栄養摂取状況

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	糖質 (g)	Ca (mg)	Fe(mg)	ビタミン			
							VA (μg)	VB1 (mg)	VB2 (mg)	VC (mg)
4月	1953	74.2	54.0	276.1	715	13.4	668	2.22	1.25	115
5月	1942	72.1	52.8	277.6	663	12.8	691	2.27	1.19	120
6月	1938	74.4	50.5	279.5	690	13.0	651	2.40	1.23	110
7月	1891	69.6	50.7	273.0	684	12.8	680	2.25	1.20	112
8月	1922	71.3	53.6	276.7	674	12.9	645	2.29	1.20	113
9月	1923	72.8	49.3	279.9	671	12.9	643	2.36	1.18	108
10月	1924	74.3	53.8	273.8	631	12.9	631	2.25	1.22	110
11月	1899	71.5	48.7	277.3	684	2.91	689	2.27	1.22	104
12月	1940	73.3	53.0	275.4	658	12.7	706	2.28	1.22	119
1月	1935	73.6	52.3	275.6	696	12.0	654	2.24	1.21	114
2月	1928	73.1	50.7	278.2	684	12.6	690	2.32	1.23	110
3月	1968	73.9	53.0	280.9	692	13.7	673	2.47	1.23	123
平均	1930	72.8	51.5	277.0	683	12.9	668	2.30	1.22	113

③ 食品群別摂取目標

穀類	いも類	砂糖	油脂	豆類	魚介類	肉類
305	50	13	17	65	65	55
卵類	乳類	緑黄色野菜	果実類	淡色野菜	海藻	
40	200	120	100	230	6	

④ 栄養摂取状況

	穀類 (g)	芋類 (g)	砂糖 (g)	油脂 (g)	豆類 (g)	魚介 類(g)	肉類 (g)	卵類 (g)	乳類 (g)	緑黄 色野 菜(g)	淡色 野菜 (g)	果実 類(g)	海藻 (g)
4月	310.1	47.0	9.8	17.7	76.1	83.1	62.7	34.1	143.3	139.8	181.8	49.3	6.9
5月	294.7	47.7	8.1	19.6	73.7	73.6	75.2	27.8	110.2	143.1	208.0	52.7	5.3
6月	294.1	51.2	9.2	18.1	64.8	83.4	76.8	29.3	123.2	135.	211.8	55.1	4.4
7月	303.2	40.0	7.4	18.1	69.3	62.5	66.0	32.1	138.8	139.0	200.1	50.7	3.8
8月	296.4	55.5	9.3	18.9	60.2	71.6	71.9	29.6	116.7	137.8	185.0	67.3	4.1
9月	308.6	52.3	8.5	17.9	69.3	81.3	74.5	27.7	126.6	127.6	205.1	52.5	3.3
10月	309.4	50.5	8.5	18.9	76.3	82.1	69.2	33.6	122.7	123.9	204.0	49.6	4.9
11月	295.1	42.1	9.0	15.8	63.1	75.6	71.1	31.7	120.4	141.4	187.7	55.9	5.1
12月	311.8	41.8	8.3	18.8	63.2	79.5	69.7	32.6	127.7	149.5	199.9	59.7	3.3
1月	296.9	45.1	10.5	18.8	65.5	78.1	67.4	35.4	115.6	131.3	209.6	57.6	4.7
2月	290.9	41.9	9.7	16.7	65.4	74.3	77.7	35.4	122.1	122.1	221.8	60.9	5.1
3月	293.8	49.8	8.6	18.8	70.8	75.6	76.9	34.3	123.4	142.2	209.2	60.7	6.3
平均	300.4	47.1	8.9	18.2	63.1	76.7	71.6	32.0	124.2	136.5	202.0	55.2	4.8

9. 保健衛生管理

年間検診等実施状況

月	検診等内容	利用者	職員
4	歯科検診（～3月）	入所者	—
6	耳鼻科検診（24日，27日）	入所者	—
7	前期定期健康診断（21日）	入所者・通所者	夜勤者等
8	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種4回目	入所者・通所者	任意
9	眼科検診（～9月）	入所者	—
10	インフルエンザ予防接種	入所者・通所者	任意
12	新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種5回目	入所者・通所者	任意
2	後期定期健康診断（2日）	入所者・通所者	全員
毎月第4木曜日 嘱託医回診			

10. 短期入所事業・日中一時受入事業

居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、宿泊による短期入所を必要とする障害者の方の支援を行った。また、日帰りの支援を希望する障害者の方については、日中一時事業により受け入れを行った。短期入所事業、日中一時受入事業合わせての定員4名で延べ利用日数は295日であった。

（短期入所事業利用実績）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	1	0	0	0	1	0	2	2	1	2	1	2	12人
	5	0	0	0	2	0	13	33	13	36	26	31	159日
女性	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	5人
	0	0	0	0	23	31	30	3	0	0	0	0	87日
合計	1	0	0	0	2	2	3	3	1	2	1	2	17人
	5	0	0	0	25	31	43	36	13	36	26	31	246日

(上段:実人数、下段:利用日数)

(日中一時受入事業利用実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11人
	3	0	3	4	5	5	5	6	4	4	5	5	49日
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11人
	3	0	3	4	5	5	5	6	4	4	5	5	49日

(上段:実人数、下段:利用日数)

11. 地域生活支援活動 (グループホーム)

年間を通じ、新型コロナウイルス感染症感染防止に留意し、病気による静養、通院等、緊急対応を行ない、地域生活者の心身の健康維持に努めた。

12. 防火・防災管理

火災・地震等の災害対策については、入所者の安全を最優先とし、特に大規模災害を想定した防災体制の強化を計った。更に、各職員の責任分担を明確にした上、年間計画に基づく各種場面(日中及び夜間)を想定した防災訓練を行った。

<防災訓練実施状況>

月	訓練教育等種別	実施内容
5	職員 防災教育	防災設備・機器の取扱いや、防火・防災計画の説明及び指導
6	通報・連絡 火災発生想定避難訓練	28日 火災想定 消防組織表に基づき実施
8	消防用設備点検	30日 総合点検
9	地震発生想定避難訓練避難	6日 大規模地震が発生したとの想定
	炊き出し訓練	6日 大規模地震が発生したとの想定
2	通報・連絡・初期消火 火災想定避難訓練	24日 夜間火災想定 消防組織表に基づき実施
3	消防用設備点検	7日 機器点検実施